

フィリップ・ジョルダン

今秋、10年ぶりに待望の来日を果すジョルダンとかつてない高みにあるウィーン響。樫本大進とのメンデルスゾーンでの共演にも期待が高まります。



© Johannes Ilkowitz.

■インタヴュー

指揮者フィリップ・ジョルダン

その人と音楽

中村真人 (ジャーナリスト・ベルリン在住)

今年6月、私はウィーンに赴いた。フィリップ・ジョルダンとウィーン交響楽団のベートーヴェンツィクルスの最終公演(合唱幻想曲と交響曲第9番)を聴くためである。2014年に首席指揮者に就任した最初のシーズン、ジョルダンはシューベルトの交響曲ツィクルスを行い、翌シーズンはバルトークの作品とベートーヴェンのピアノ協奏曲(ピアノはピエール・ローラン・エマルル)を組み合わせたツィクルスで話題を呼んだ。そして、3シーズン目に満を持して臨んだのが、ベートーヴェンの交響曲ツィクルスだった。意外にも、ウィーン響がベートーヴェンのツィクルスに取り組むのは、1998年のフェドセーエフ指揮以来だという。

ツィクルスは約4ヶ月かけて、録音をしながらいよいよ進められた。6月20日の夜は、楽友協会の大ホールでレコーディングも兼ねたゲネプロが行われた。黄金のホールの舞台にぎっしり並ぶオーケストラに合唱団、そこからかすかに聴こえてくる空虚五度の響き。もうそれだけで胸が熱くなるが、そこから巨大な音楽の全容が姿を現すまでのたたみかける迫力にいきなり圧倒された。やや早めのテンポの中で、強い表現への意欲にあふれた演奏で

あり、ジョルダンはすべての小節において音と「格闘」しているような趣きだった。もちろん、常に汗をかきながら動き回っているわけではないのだが、舞台の至るところから熱ある響きが吹き出してきて、聴き手を呪縛し続ける。翌日、ジョルダンにインタヴューした際、その感想を伝えたところ、「第8番まではコンパクトな編成も取り入れましたが、『第9』はベートーヴェンが表現の苛烈さの限界に挑んだ作品なので、(コントラバス8本の大幅編成を使って)人間的な部分とモニュメンタルな要素の両方を出そうと努めました」という答えが返ってきた。

21日の本番の演奏会も感銘深いものだった。フィナーレ冒頭での低弦のレチタティーヴォは人間の声のように響き、ジョルダンのオペラ指揮者の経験が如実に生きていた。私が直接知る20代の頃のキビキビとした音楽の運び方は変わっていないものの、音に漂う風格やスケール感がぐっと増した。ソプラノのアニア・カンペ、バスのルネ・パーベといった当代一流の歌手をソリストに起用できたのも、オペラ指揮者ジョルダンの幅広い人脈ゆえだろう。

この原稿を書いている数日後の7月25日、ジョルダンはバイロイト音楽祭のオープニング公演、新演出の《ニルンベルクのマイスタージンガー》を指揮する。彼は2012年にここで《パルジファル》を指揮しているが、プレミエを任されるのがこれが初だ。欧州の楽壇でますますその存在感が高まっていくジョルダンだが、意外にも日本では2007年の札幌のPMFがこれまで指揮した唯一の機会。この11月からのウィーン交響楽団との来日公演は、まさにウィーン、そして彼が得意とするドイツ・ロマン派の香りが漂うプログラムだけに、期待は膨らむ。

*インタヴュー全文、来日直前までの活躍、リハ・サル動画はHPをご覧ください。

フィリップ・ジョルダン(音楽監督) Philippe Jordan (Music Director)

Profile

現在、パリ・オペラ座とウィーン交響楽団の音楽監督を兼任しているフィリップ・ジョルダンは、同世代の中で最も才能に恵まれ、聴衆を熱くする指揮者の一人として確固たる地位を築いている。

彼のキャリアは、1994/1995シーズンに、ウルム市立劇場のカペルマイスターとなったことに始まる。1998年から2001年までは、ベルリン国立歌劇場でダニエル・バレンボイムのアシスタントを務めた。その後、彼は世界中の一流オペラ・ハウスや音楽祭にデビューを果たした。主なものとしては、ニューヨーク・メトロポリタン・オペラ、英国ロイヤル・オペラ・ハウス、ミラノ・スカラ座、ミュンヘン・バイエルン国立歌劇場、ザルツブルク音楽祭(《コジ・ファン・トゥッテ》)、ウィーン国立歌劇場、バイロイト音楽祭(《パルジファル》)などである。2006年から2010年までは、ベルリン国立歌劇場の首席客演指揮者を務めた。

これまでに共演したオーケストラとしては、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン国立歌劇場管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団などがある。

■ジョルダン書籍紹介

『100語でたのしむオペラ』フィリップ・ジョルダン 著/武藤剛史、田口亜紀 訳(白水社)

ジョルダンが自らの経験を踏まえ、オペラ作品が企画立案からどのような過程を経て上演にまで至るかを、100語のキーワードで分かりやすく解説しています。



■ 榎本大進に聞く。

Q: ヴィーン交響楽団との共演はお久しぶりですね?

A: ヴィーン交響楽団とは、2002年に、フェドセーエフさんの指揮でブラームスのヴァイオリン協奏曲で一緒にしました。もちろんあれから年月が経ち、今回フィリップ・ジヨルダンさんという新しい音楽監督を迎えたことによつて、様々な変化を遂げていることと思います。きつとオーケストラの伝統を受け継いだ古き良き重厚感のあるサウンドと、ジヨルダンが吹き込む新しい風が融合し、その魅力をさらに膨らませていることでしょう。とても楽しみです。

Q: フィリップ・ジヨルダンさんについてはどのような印象をお持ちですか?

A: フィリップ・ジヨルダンさんとは初めての共演になります。彼のことを知る友人たちからは、とても勉強熱心な方で、頭の中ですべてが順序立ててきちんと構築されている印象を受ける方だと聞いています。映像で拝見しても、とても美しい指揮をする方ですね。早く彼の指揮で演奏してみたいです。

Q: メンデルスゾーン: ヴァイオリン協奏曲をご披露ください。

A: 有名な曲なのですが、実は僕の演奏頻度はあまり高くないのです。日本で演奏するのも、かなり久しぶりになります。

この曲にまつわる思い出は、まだ18歳だった頃にピシニコフさん指揮のケルン放送交響楽団とツアーを行った時のこと。ピシニコフさんに、とても厳しく鍛えられたことを鮮明に覚えています。その成果をお聴きいただけるでしょう(笑)。



© Keita Osada

2017年 **12月1日(金) 19:00(18:30開場)**

◇ メンデルスゾーン: ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64 榎本大進(ヴァイオリン)

◇ マーラー: 交響曲 第1番「巨人」ニ長調

S ¥22,000 A ¥18,000 B ¥14,000 C 売切 D 売切

夢倶楽部会員料金 S ¥21,000 A ¥17,000 B ¥13,000 C 売切 D 売切 (税込)

※料金には消費税
8%が含まれております。

2017年 **12月3日(日) 14:00(13:30開場)**

◇ ベートーヴェン: 交響曲 第5番「運命」ハ短調 作品67

◇ ブラームス: 交響曲 第1番 ハ短調 作品68

S ¥20,000 A ¥16,000 B ¥12,000 C 売切 D 売切

夢倶楽部会員料金 S ¥19,000 A ¥15,000 B ¥11,000 C 売切 D 売切 (税込)

※料金には消費税
8%が含まれております。

サントリーホール

主催: ジャパン・アーツ

後援: オーストリア大使館/オーストリア文化フォーラム/
オーストリア政府観光局/スイス大使館

協力: ワーナーミュージック・ジャパン

2017年日本公演スケジュール ★榎本大進出演

11月26日(日)	横浜みなとみらいホール	(問)横浜みなとみらいホールチケットセンター TEL.045-682-2000
11月27日(月)	アクロス福岡	(問)アクロス福岡チケットセンター TEL.092-725-9112 ★
11月28日(火)	名古屋市民会館	(問)中京テレビ事業 TEL.052-588-4477
11月29日(水)	ハーモニーホールふくい	(問)TEL.0776-38-8288 ★
12月2日(土)	兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール	(問)芸術文化センターチケットオフィス TEL.0798-68-0255 ★

Vol.2は、パイロイト音楽祭のレポートをお届けします!

ジャパン・アーツぴあ (03)5774-3040 www.japanarts.co.jp/